

吉野川で遊ぼう！！

藍色
あいろ

INDIGO BLUE

こんにちは。川遊び大好きアクティブ系河川管理者「遊び人のM」です。
吉野川で遊ぼう！！では、自ら体験し、川を楽しみ、感じたことを発信します。
第17回は「吉野川の藍染め～ジャパンプルー～」です。

藍は最も古い植物染料とも言われ、鎌倉時代には武士が一番濃い藍染めを「褐色（かちいろ）＝勝色」と呼んで鎧の下に身につけるなど戦勝の縁起をかついだと言われています。

また、明治時代、日本にやってきた外国人が「日本は神秘的なブルーに満ちた国」と記したり、日本中にあふれる藍色におどろき、藍色をエキゾチックな特別な色に感じ『ジャパンプルー（Japan-Blue）』と名付けたそうです。

世界的に有名な江戸時代の浮世絵師・歌川広重の作品の特徴が、川や空といった藍色を基調としたため「ヒロシゲブルー」とも呼ばれます。



当日はめずらしく大雪、徳島市内でも4cmの積雪となりました。

藍染めは染める回数によって濃淡が生まれ、その各段階に色名が付けられ、「藍四十八色」といわれるほどのバリエーションがあります。

現在も徳島県の藍染めは、全国的に有名で、色褪せしにくく、消臭効果、虫よけ効果も期待できるとのこと。

徳島県上板町にある、伝統産業の技を体験できる「技の館」で藍染体験をしました。



上板町地域おこし協力隊、男前の豊島先生に、わかりやすく染め方の指導をしてもらいました。兵庫県から来ているそうです。



まずは、何を染めるかを決めます（かなり迷います）。ハンカチ、ストール、コースター、エコバックなどから選び、素材を結んだり、茶こし・輪ゴム・洗濯バサミ・フィルムケースなどで、自由に模様をつけていきます。



体験レポート（from みんなのアイドルみぞっちとやのっち）

はじめて、藍染めとスラックラインを体験したこの日、徳島県内は雪が積もり積もって、一面真っ白で強烈に印象に残っています。幻想的だったけれど、雪ふりすぎ！

藍染めはずっと興味をもっていたので、今回体験できることになりワクワクでした。初心者でもわかりやすい工程で、簡単に自分オリジナルの作品を作ることができ大満足です★

スラックラインも寒空の中、チャレンジしました。

スラックラインの存在を知らなかったのですが、運動が大嫌いな私でも実際やってみるとた〜のしいい！！サーカス団の一員になって綱渡りをしているような感覚でした。

次は渡りきれるようになりたいなあ。。充実した一日でした。また集まりたいです。



私は地元が徳島なので、小学校以来の藍染め体験となりました。

藍の染料がある部屋に入ると、独特の香りで懐かしい気持ちに。今まで試したことが無かった染め方にしようと「むらくも染め（うずまき）」に決め、わくわくと準備を進めました。

実際に染めてみると、想像とは少し異なりましたが、良い出来になったかなと思っています。

次回は、もっといろいろな染め方を組み合わせて、藍色に染めたいです。



「青は藍より出でて藍より青し」

藍と吉野川との深い関係は、Our よしのがわ 2016.7VOL.2 に詳しく書いています。